

超高齢化社会を生き抜くために図書館で勉強を
- 年齢不承社会をつくろう

開倫塾
塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
今日は8月15日、終戦記念日です。この日を契機にして、平和について、あるいは日本の将来について考えてみると素晴らしいと思います。
2. 今の日本は超高齢化社会であると言われてはいますが、私はこの問題を切り抜ける1つの考えを持っています。それは、年齢によって国民を区分するのを止めてしまう社会をつくることです。例えば、一般的に労働人口は15歳から64歳までとされていますが、そうであると日本では65歳以上の方が最終的には総人口の3分の1になると言われていますので、日本の国を支えることは到底できません。
3. ですから、労働人口を画一的に15歳から64歳までと決めないで、また、75歳以上の方を後期高齢者と一くくりにしないで年齢不詳にする、つまり年齢によって区分しない国をつくるとよいと思います。すなわち、超高齢化社会を乗り切るための私の答えは、年齢不詳化社会、つまり年齢を全く問わない社会にして、働ける人はいくつになっても働き、働くのが困難な人は別の形で人生を充実させるようにすればよいということです。
4. 孔子の言葉に、「三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず。」があります。これも素晴らしい考え方はあります。加えて、年齢にとらわれずに自由に発想して行動する、あるいは自主的に行動する、現代はそのような時代であると思います。
5. ケンタッキーフライドチキンの店頭で、非常に有名な白髪で白い髭をたくわえ白い服を着た人の像が立っていますが、この人物は創業者の通称カーネル・サンダースさんとされています。当然ながら店を創業した頃の姿で、既に70歳を過ぎていたと言われています。
この例のように、いくつになっても創業してもおかしくないという社会を、これからの日本はつくっていくとよいと思います。年齢にこだわることはほとんど重要でないということが大事です。
6. 何年前に、私はアメリカのフェニックスという町に行きました。そこのホテルに泊まり、朝食を摂るためにレストランに行くととても驚いたことがあります。誰の目から見ても80歳は過ぎて

いるだろうと思われる女性が赤いミニスカートをかわいらしくはいて、私たち客に朝食を出してくれたからです。そして、いろいろ心配して「日本から来たそうだが、夜はぐっすりと眠れただろうか。」「食事は口に合っただろうか。おいしかっただろうか。」と尋ねてくれたからです。次の日もまた、同じように 80 歳過ぎと思われる別の女性の方が赤いミニスカートをはいて朝食を出してくれました。

フェニックスというアメリカの町では 80 歳過ぎの方も皆と一緒に立派に働いているという、素晴らしい光景を見せていただきました。

7. 私は、今後ますます加速する日本の超高齢化社会を乗り切るためには、年齢不詳化社会がよいと思います。この考えは、マッキンゼーというコンサルタント会社で以前日本の支社長をされていた横山さんからお聞きしたお話をもとにしたものです。年齢によって区分するのを止め、自由自在に発想して自由自在に行動する、これこそ素晴らしいことだと思います。

8. これに少し付け加えたいことは次のことです。高齢になっても働ける人は働いたほうがよいといくらいいても、勉強しなければ頭が働きません。ですから、最も重要なことは死ぬ前の日まで勉強し続けることです。それには、図書館を有効に活用するのがよいと思います。

私は栃木県の社会教育委員を仰せつかって 5 年目になりますので、好んで県内や群馬県、茨城県、東京都の社会教育施設を見学しています。そこで残念に思うことが 1 つあります。それは、図書館の活用の仕方があまり積極的でない方が多いということです。県や市町村が整備したたくさん図書館がある、大学の図書館はどこでも利用できるにもかかわらず、住民の皆さんは余り有効に使っていないように思えます。

9. 最低でも 1 か月に 1 回、できれば 1 週間に 1 回以上は図書館に行き、自分の教養を高めたり、知識を蓄えたり、新しい情報を得たりするのが望ましいのですが、そのように活用している方はあまり多いとは言えません。

10. 先日、たまたま栃木県の市貝町の図書館と芳賀町の図書館に行きました。どちらも素晴らしい図書館でしたが、満杯という状態ではありませんでした。立派な図書館なのですから、町民の方々はもっともっと利用したほうがよいのではないかと思いました。

11. 自分自身を充実させるために、また、年齢によって区分することを止め 60 歳を過ぎても 70 歳、80 歳、90 歳を過ぎても自由自在に自分の頭で発想して行動することを奨励するような社会、つまり年齢不詳化社会を迎えるために、ぜひとも図書館を利用してはどうかというお話を、今日はさせていただきます。

- 2009 年 8 月 15 日 -